

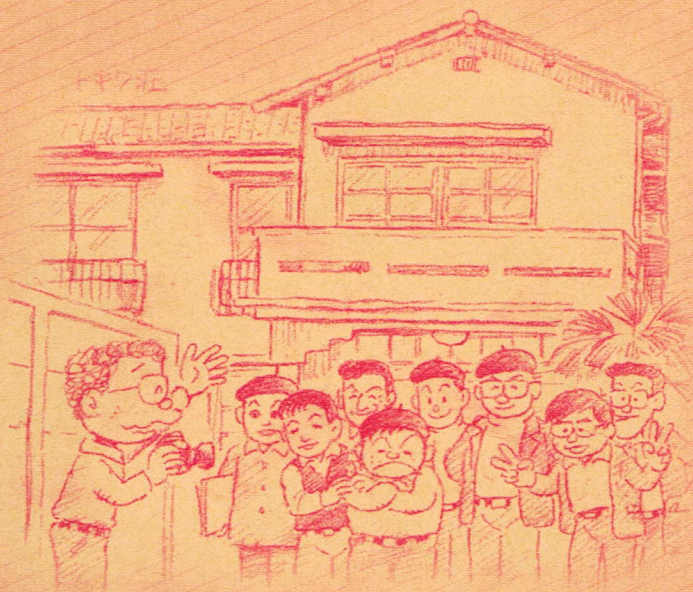
トキワ荘 関連年表

- ・昭和28年(1953) トキワ荘の完成とほぼ同時に手塚治虫が入居。
大晦日に、寺田ヒロオが入居。
- ・昭和29年(1954) 手塚が雑司ヶ谷の並木ハウスに転居。
10月30日、藤子A・Fの二人が手塚氏の居た14号室
に入居。
- ・昭和30年(1955) 藤子Fがとなりの15号室に移る。
11月、鈴木伸一が入居。
雑誌「漫画少年」が廃刊。
- ・昭和31年(1956) 2月、森安なおやが鈴木^(うさぎ)の部屋に同居。
(鈴木は6月に、横山隆一の「おとぎプロ」に転出。
12月まで森安が一人で住む。)
5月、石ノ森章太郎が西落合の下宿から転居。
11月、石ノ森と同居状態であった赤塚不二夫も、
となりの部屋に入居。
この頃、つのだじろうがスクーターで出入りを始める。
- ・昭和32年(1957) 6月、寺田が目白に転居。結婚後は渋谷へ。
よこたとくおが入居。
- ・昭和33年(1958) 水野英子が上京するも半年ほどでトキワ荘を出る。
- ・昭和34年(1959) 藤子A・Fの二人が共同仕事場として兎荘を借りる。
赤塚も手狭になり紫雲荘を借りる。
- ・昭和36年(1961) 赤塚が結婚後、鈴木園のアパートに転居。
よこたも転居後、結婚。
藤子A・Fの二人も川崎の新居に転居。
最後までいた石ノ森も暮れに近くのアパートに転居。
- ・昭和38年(1963) トキワ荘の仲間たちでアニメスタジオ「スタジオ・ゼロ」
を設立。(中野区・中央)
- ・昭和45年(1970) トキワ荘の仲間たちのオムニバス「トキワ荘物語」
連作や藤子Aの自伝的漫画「まんが道」の連載
開始で、トキワ荘が有名になり始める。
- ・昭和46年(1971) スタジオ・ゼロ解散。
- ・昭和56年(1981) トキワ荘が解体されることが決まり、NHKのドキュメ
ンタリー番組や出版物もあいつぎマスコミも騒ぎ立つ。
寺田が自費で編んだ資料集「漫画少年史」を刊行。
- ・昭和57年(1982) トキワ荘が老朽化のため解体。
- ・平成8年(1996) 映画「トキワ荘の青春」(市川 準 監督)公開。
- ・平成9年(1997) 「まんが道」の続編的な藤子Aの「愛・しりぞめし頃に」
が、ビッグコミックオリジナル増刊に連載され現在
も続く。



デザイン：SHIBATA イラスト：TAKEI

“トキワ荘”の あった街



鈴木伸一氏画 岩波ジュニア新書「アニメが世界をつなぐ」より

昔、豊島区椎名町※にあったトキワ荘。
マンガの神様たちが青春時代を過ごした
「奇跡のアパート」

町の名も変わりトキワ荘もない今、
マンガの聖地に新たな伝説が生まれる。

※昭和39年まで南長崎の旧町名は椎名町でした。

<トキワ荘のあった商店街>

目白通り二又商店会・南長崎ニコニコ商店街

“トキワ荘”のあった商店街 マツ

目白通り二又商店会・南長崎ニコニコ商店

商店街でお買い物をして、当時を振り返ってみませんか？

南長崎の旧町名の椎名町とは、今の目白通り辺りの俗称であつたらしく、19世紀初めの文献にも「椎名町商人の家に貧しきは見えず」とありました。その昔から地名に町の名がついていたということは、相当に栄えていた証でしょう。

戦後まもなく商店会が組織されたのは、昭和24年頃といわれていますが、目白二又・ニコニコ両商店会ともマーケットなどには、20軒以上の個店が集中していましたので、最盛期には合わせて200店を超えていたと思われます。

歳末商戦ともなると、ジングルベルなどの音色が絶え間なく聞えて来ました。



鈴木伸一氏画 トキワ荘全景

